

### 『税金を支える未来と今』

自分はふと思った。税金があるから学校に通うことができ、学べているのだと。

自分は小学生の時、税金が何に使われているのか全く理解していなかった。しかし、一つ引っかかることがあった。それは、新しく教科書をもらうとき必ず先生は、「この教科書は将来をになうあなた達のために無償で与えてくれているの。必ず大切にしてください」と話してくれたが、小学生の私には意味が分からず、心に引っかかっていた。そして、中学生となりこの意味を知り税金があるから学校に通えていることを知り、学ぶことの重みを感じるとともに、感謝の思いがこみあげてきた。国民が納めている税金を国が自分たち学生のために学ぶ機会を与えてくれているのだと。だから、私は学ぶということを一度たりとも無駄にしてはいけないと思った。しかし、現実には、「学校は疲れる」「勉強はめんどくさい」。そんな声が多い。世界を見渡せば勉強したくてもできない子供がたくさんいる。日本は恵まれているため、当たり前のように学校に通えているように感じるが、この恩は私たちが一生懸命学ぶ姿でしか返せないと思う。

そして、もう一つ税金で気になったのが、高齢者に対して給付される年金だ。「年金が少ない」「この額じゃ生活できない」。そんな言葉をテレビのニュースでよく見る。しかし、本当に助けられていないのか。もっと周りを見て欲しい。環境はバリアフリーの建物が増え、少しずつではあるが高齢者・障がい者に優しい環境に変わっている。その工事も、ほとんどが税金によって行われている。確かに、直接手元に届く年金の額は少ないのかもしれない。しかし、さまざまな角度から税金によって住みやすい環境づくりが進んでいることは間違いない。

税金を支払う物、恩恵を受け取る者それぞれいろいろな立場があると思うが、この相互のバランスが崩れてはいけないと思う。税金は見えない誰かを支えていると自分は思う。直接見えていなくても、誰かが払った税金が誰かの生活を豊かにしている。こう考えることができれば、税に対する見方も変わってくると信じている。

私は、大人になれば喜んで税金を払いたいと思う。なぜなら今まで、税金で学ばせてきてもらったからである。このバトンは必ず次の世代につなぎたいからだ。